

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

！ 今回より防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません！
！ ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください！

育苗期～定植時おすすめ防除

育苗期の徹底防除で、本圃への病害虫の持ち込みを防ぎましょう！

※ランナー切り離し後から農薬のカウントが始まります。回数には気を付けてください！

IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防治療		希釈倍数	使用時期	回数	影響日数			
			○	—				ミツバチ	マルハナ	ミヤコ	チリ
12	黒腐病・炭疽病 灰色かび病	セイビアーフロアブル20	○	—	1,000倍 (灰色かび病: 1,000~1,500倍)	前日	3回	0日			0日
39, 21A	アブラムシ類・アザミウマ類 うどんこ病 等	ハチハチフロアブル	○	—	1,000倍	1番花の 開花まで	1回	5日	5日 ↑		40日↑
M03	炭疽病	アントラコール 顆粒水和剤	○	—	500倍	仮植 栽培期	6回	—	1日	—	7日
6	ハダニ類	アグリメック	—	—	500~1,000倍	育苗期	2回	14 日	7日		7日
10,1	炭疽病	ゲッター水和剤	○	○	1,000倍	収穫開始 21日前	3回	0日	1日		14日
1B	アブラムシ類 ハダニ類 等	トクチオン乳剤	—	—	1,000倍	75日前	3回	—	1日		30日
3	うどんこ病・炭疽病	サンリット水和剤	○	○	2,000倍 (うどんこ病: 2,000~4,000倍)	前日	3回	—	—	—	—
13	ミカンキイロアザミウマ・ ハダニ類・ハシモンヨトウ 等	コテツフロアブル	—	—	2,000倍	前日	2回	10 日	9日		14日

対象病害虫によって希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。



似ているこの症状はどんな病気？～炭疽病・疫病～

どちらも親株から感染する可能性があるため、育苗期から注意が必要です！

症状が酷似しているため、適切な対策をするために病害虫診断をおすすめします！

【炭疽病 (Colletotrichum)】

茎やランナーに黒色のくぼみが発生したり、葉では赤～黒褐色の斑点を形成します。多湿時には小黑点や鮭肉色の胞子を形成することもあります。クラウンを切断すると、**外側から赤褐色に変色**しています。



【疫病 (Phytophthora)】

クラウンと根の基部が褐変し、切断すると外側から内側へ褐変しています。葉には初期は黒褐色で楕円形のくぼんだ病斑が発生し、多湿時には拡大して暗褐色、不明瞭な病斑を形成します。



**切り離し後
から育苗期が
スタートです！**



**毎月1日掲載
各作物をチェック！**

